



今日の聖書本文:マタイの福音書 14章28-33節/ヤコブの手紙:4章2節後半-3節

説教者: 鄭南哲じよんなんぢよる 牧師

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！一週間もお元気でしたか。最近変わり目の一日温度差が激しいですね。ぜひみなさんのお体をより大事になさって下さい。そして、始まった10月の最後の1週間も主の平安のうちにみなさんの心も体も守られ、祝福されるように切に祈ります。料理教室のため韓国に行かれた13名の方も明日帰国することになりますが、みんな祝福され、無事帰国するまでお祈り下さい。

私たちは先週先に“順境の日には喜び、逆境の日には反省せよ。これもあれも神のなさること。それは後の事を人にわからせないためである。”(伝道者の書7:14)という御言葉から引用しながら、順境の日には神様に感謝し、苦しみのはどうしてこんなことが起きたのか自分を顧みながら、これを通して神様が自分に何を教えようとしているのかを考えなければならないこと、神様はこの二つを平行(へいこう)させてくださることにより人が人生の先をわかることができなため神様をより頼んで歩めるようにされたことと伝道者の書の教えを学ばれました。

そして本文を通してイエス様の御言葉に従った弟子たちなのにもかかわらず、弟子たちが乗った舟が荒波にもてあそばれて苦しめられた事に関して考えて見ました。イエス様のお言葉に従ったのに弟子たちが荒波に追われて死にそうになるほどの苦難を受けた事についてそれをどう理解するべきか一緒に考えられました。結論的に言いますと、イエス様に従いながら受ける苦しみは決して不幸ではなく却ってイエス様の真の力と深い慰めを経験することができる祝福であることはわかりました。

今日我々も生きているうちに嵐に襲われている弟子たちのようにイエス様のみことばに従ったのに、むしろ苦しめられる場合があるでしょう。ある人の場合は自分の気持ち次第に、教会の主日礼拝に行きたい時に行き、献金もしたい時して、祈る気やそのようなトラブルがあれば祈ったりしながら、自分勝手に信仰の生活をしている人々がもっと楽に生きているように、祝福されているように見える時がありませんか。むしろイエス様のお言葉通りにちゃんと信じて、まじめに教会生活をしながら、奉仕もしながら熱心に従っていたのに、体は疲れはてて、経済的には余裕がなく、いろんな問題や葛藤に苦しめられる場合があったかも知れません。しかし、覚えるべきことは、荒波の中の弟子たちのようにしばらくは荒波にもまれて苦しくてもそこで人生にやってくる嵐をも静まれる神様の御力をも経験することができます。イエス様を信じていると言葉ではよく言いながら、まだ一度も実際に生きておられる神様の恵みを、力を体験したことがないと言われる方々を見るととても残念に思われます。なぜなら、我々が信じているインマヌエルの主、つまり我々とともにおられるイエス様はよみがえられ、今も生きておられるからお方です。昔の、死んだ、遠く離れている神様ではありません。

ですから従うことなく、一時的な嵐をさけたことだけを自慢する弱いクリスチャンではなく、人生のどんなあげしい荒波の中でもそれさえも静まれる神様の御力と恵みを経験しつつ、突破し、望みの港に着く時まで前進し続ける強いクリスチャンになりますように主の御名によって祝福します。

そして、もう一つはイエス様は弟子たちが大体9時ごろから夜中3時になるまで荒波にもまれて死にそうになっている光景を見ておられ、知っておられたのにどうしてすぐ弟子たちに行き助けの手を差し伸べて下さらなかったのかについて一緒に考えられました。なぜイエス様は能力を持っておられたにもかかわらず、イエス様はすぐ波を落ち着かせなかったのでしょうか。

イエス様が丘の上で夜中3時ぐらいになるまで嵐に追われている弟子たちを眺めておられた理由は、彼らをただ困らせるためではありませんでした。実はイエス様はこの夜中3時まで待っておられたのです。きっとイエス様は弟子たちにこのように考えながら見つめておられたのではないかと思います。

‘自分たちの力で一度頑張ってみなさい。自分たちの経験、知識、持っているすべてを全部使ってみよう。かならず自分の限界を感じるだろう。私を信じると言いながらどれほど自分たちの力によって生きようとしているのか。..自分たちの信仰がどのくらいであるか試してみよう..’

夜中3時ごろになったら、弟子たちは“もう神様、もうこれ以上はできません。お手上げです。神様、お願いします。助けてください。！”と心からぜっばくに求めたと思います。“その夜中3時ごろ”イエス様が弟子たちに現れます。神様にひざまずいてただ神様の恵みだけを求め、ただ神様に頼る時、ようやく神様は弟子たちに来て助けてくださいました。

誤解はしないで下さい。では人が頑張らなくて、何もやらなくても良いのか。ただぼんやりしながら何もしないで神様の助けだけを待てれば良いのかのように理解してはいけません。

ここでは弟子たちの信仰の面です。どんな場合にもしっかり信仰をもって、信仰を生かしているのか、言葉だけではなく、真の信仰を強く持っているのかの問題でした。イエス様は弟子たちがただの奇跡のところ、恵まれている環境の中だけで信じる信仰ではなく、どんなに激しい嵐の中でも、どんなに苦しみの中でも、揺るがない信仰を持って人生のさまざまな荒波を突破し、乗り越えて生ける信仰を与えたかった主の目的があったことはわかります。

愛するみなさん！イエスキリストは今も我々の人生の状況、心の状態すべてを見抜いておられる方です。その方の前では何も隠すことができません。みなさんは今どんな心と信仰の姿勢で生きているのか、絶対的に神様だけを信じ、徹底的にイエスキリストに頼って神様の恵みを求めているのかどうかすべてを知っておられる方です。日常の生活の中でどんな時でも信仰をたたせ、信仰を生かしているのかも御存知のお方です。

### <今日の本文>

今日の聖書の御言葉はその続きの内容の御言葉です。

本文に戻って見ましょう。今はどんな状況ですか。夜中3時ごろ、もう激しい荒波により弟子たちが気力も失い、絶望の中にいた時、イエス様が湖(みずうみ)を歩いて弟子たちに来られるのを見た弟子たちはあまりにも驚きさらにおびえてしまい、イエス様を“幽霊だ”と叫び声をあげていました。(26節)

その時イエス様の弟子たちの中でたったペテロのみが“主よ。もし、あなたでしたら、私に、水の上を歩いてここまで来い、とお命じになってください。”とお願いします。それでみなさんの読んで御存知のようにペテロが湖を歩く奇跡を体験することができました。しかし、もう少し歩いたら、その後、ペテロが風を見て、こわくなり沈み掛けたので、イエス様はすぐにペテロに手を伸ばして、彼を救い出して下さいまし

た。そして、二人が舟に乗り移ると、不思議にあんな激しかった風と荒波がやみました。

今日の本文の33節を見ると、舟に乗っていた弟子たちは今回のこの出来事を通してイエスを拝んで、「確かにあなたは神の子です。」とみんなが真心をもって信仰の告白をすることができました。

この一連の出来事を通してイエス様は苦しみの中にいる弟子たちに教え、望んでおられた信仰はどんな信仰だったのでしょうか。

**一つ目、イエス様は苦難の中のいる弟子たちに挑戦(チャレンジ)する信仰を持てるように望まれます。**

波に悩まれ恐れおびえていたイエス様の弟子たちはその湖の上に歩いて来られるイエス様を見てさらに幽霊が自分たちの所に来るのだと思ひ込みおびえてしまいました。しかし、ただ弟子たちの中でペテロのみは、イエス様であることを気づき積極的に話かけます。それだけではなく、もう一方踏み出して、自分も湖を歩けるように求めています(28節)。

ペテロは本当に面白いですね。それにイエス様も面白い方です。イエス様もすぐペテロにその信仰の通りに歩いて水の上を歩いて来なさいと言われました(29節)。

みなさん！想像して見て下さい。まだ回りは暗くて荒波はざぶりざぶり激しく打ち寄せているのに、その湖の上を立っておられるイエス様のところにペテロが舟から出て、水の上を一步、二歩、三歩を歩いて行く姿を！

今日のこの聖書の御言葉の出来事は人間の理性、人間の科学、人間の感覚では到底不可能な事が起こっています。

人の目では見た事もない、聞いたこともなかった神様の御業がペテロに起こったわけです。

愛するみなさん！自然の法則を越える法則があります。それは信仰の法則なのです。

しかし、我々が注目すべきところはペテロが水の上を歩く前にした彼の信仰の告白が大事です。

「主よ！もしあなたでしたら、」(28節)この短い言葉にはこのような意味が含まれていたと思います。

“イエス様！今湖の上に立っていらっしゃるあなた様が水でぶどう酒を作り、御言葉で38年間不治病にかかった人を癒し、数時間前にパン五つと魚二匹で男だけで5千人ほどの群衆を食わせた能力の神様、イエス様あなたでしたら、確実に私をもあなたのようにこの水の上を歩かせるお方です。”

“主よ！もしあなたでしたら！”この告白には幽霊か、じゃないか疑っているより、イエス様である確信を持って確かめていた告白でした。そうじゃなかったら、いくらペテロが冒険的な性格だったとしても疑いながら自分の命をかけて舟から降りることができなかったはず。ペテロが今イエスキリストへの持っていたその信仰の力によって彼は自分の舟から大胆に降りることができたと思えます。その信仰を見たイエス様は水の上を歩いて来るように赦して下さいました。(29節)

そして、ペテロはそのイエス様の命令に従って舟から降りて水の上を始めて歩くことができたのです。ペテロは人類歴史上水の上を歩いた初めての人物となりました！

愛する信仰の家族のみなさん！結局12人の弟子たちの中だった一人ペテロのみがこの特別な恵みを経験し、この素晴らしいチャンスの主から頂きました。なぜペテロだけでしたか。他の弟子たちと違って、ペテロのみが今の苦しい状況や巻き込まれている問題にただあきらめて屈服(くつぷく)しないで、イエスキリストを信じて、チャレンジする、挑戦する信仰を持っていたからではないでしょうか。

‘イエス様がそうなさったなら、そのイエスキリストを信じている私もできるはずだ！、イエス様のお言葉に単純に従って見よう！きっとその方の御力が私を助けてくださらないはずがない！’

我らの主イエスキリストは今日の私たちにペテロのようにチャレンジする信仰を望んでおられると信じます。

チャレンジする信仰って何ですか。それは主にあって今の自分が安住してしまった状況や問題の中で執着せず、あきらめないで、乗り越えるために、信仰をもって新しく冒険して見る信仰を言います。

スイスの有名な内科医師であり、精神医学者であったポール・トルニエ(Paul Trumien, 1898-1986)と言う方は「冒険する人生」という有名な本を書きながら、神様が人を創造される時すべての人間に「冒険精神」を与えて下さったと言いました。ある人は冒険的な性格や態度を持っているか、いないかではなく、すべての人に与えて下さったと主張しました。

実は聖書に出ている多くの信仰の人物たちの人生を見ると、信仰によって挑戦し、冒険し続けて人生でした。

例え、信仰の父と呼ばれたアブラハムもそうでした。信仰の章と言われる新約聖書のヘブル人への手紙11章8節を読んで見ると、彼もどこに行くのかを知らないで、信仰によって神様に言われた通りに自分の安住してたところから出て行く冒険的な信仰を持っていたことが分かります。

「信仰によって、アブラハムは、相続財産として受け取るべき地に出て行けとの召しを受けた時、これに従い、どこに行くのかを知らないで、出て行きました。」

出エジプト記を読んで見ると、神様はエジプトで400年間奴隷生活をしていたイスラエル民たちに挑戦させます。

つまり、神様は指導者モーセを通して“現実に屈服しないで、葦の海を渡って約束の地に出て行きなさい！”と。

このような神様からの命令は生まれながら自分の身分が奴隷に決まっていた人たちにとってはどれほどの冒険であり、チャレンジだったのかわかりません。

愛する信仰の家族のみなさん！今のこの時代、我々の周りには劣等感や比較意識に捕らわれて、“おれはあれやっても、これやっても絶対できん！”と悲観的に思い込んで、自分の人生の中で何の変化も、期待もせずに無理力に生きている人々がどれほどおおいのか分かりません。あるいは、何をしてもいつもマイナス的に、ネガティブな視線で批判ばかりしながら実際自分は動こうとしない人々もいます。しかし、神様は信仰をもって生きている我々にそういう姿を望みません。

神様は我々に偉大な神様を信じ、その信仰の武器をもってチャレンジし、冒険しなさいと進めて下さるお方です。

信仰の家族のみなさん！どうして私たちは時々神様につぶやく時があるのでしょうか。どうして私はこんなふう生きるべきでしょうか！

どうして神様は私にもっと祝福して下さいませんか！という内容が多いと思います。

しかし、みなさん正直に自分を振り返って見て見ませんか。イエス様がペテロに水の上を歩いて来なさいというような大きなチャレンジじゃなくても私たちにも生活の中でそう見たいな挑戦し、チャレンジの要求をされた時がどれほど多かったのでしょうか。もしかしら、先週にもあったかも知れません。先月か、去年もあったかも知れません。

“もううちの子が受験生で勉強が忙しいのに、どうやって聖書の御言葉通りに毎週の礼拝を捧げることを守れますか。無理です！”“自分が使うのにも最近経済的にきついのに、どうやって聖書の御言葉通りに十分の一をちゃんと神様に捧げることができるのですか。主よ。大変で無理です！”

多くのクリスチャンは主イエスキリストを信じます！と言いながら、単純に主の御言葉に従わず、自己中心的に自分の都合や立場でいいふうに妥協しながら、自己合理化をしているため何の神様の御力を体験することができないかも知れません。

## 二つ目、イエス様はまず神様の御心を探り、神様の答えを頂いてから動く信仰を喜びます。

ここで注意することが一つあります。二つ目に考えたいのは、このようなチャレンジする信仰っていうのはやたらに自分が勝手に決めてするのではなく、いつもまず神様の御心を求めるべきであることを覚えておきたいと思います。

それを一言で言いかえりますと、祈りの答えだと言えるでしょう。

私が子供ごろ、教会のCS先生から今日ペテロの話についてこう教わったことがあります。“ペテロがよ。舟からすぐ飛び降りたのは彼の性格がどれほど気が短かったのか代表的に教えて下さる箇所、ペテロはすぐイエス様を見たときに自分もイエス様のように水の上を歩きたくしょうがなく、舟から出て、すぐ水に沈みかけて死にそうになり大変でしたよ！”と。

しかし、みなさん、今日の本文マタイの14章をちゃんと読んで見ますと、気が短いペテロの性格とは何の関係がない箇所であることが分かります。却って弟子たちの中で一番落ち着いている様子じゃありませんか。

ペテロはイエス様に“主よ。もし、あなたでしたら、私に、水の上を歩いてここまで来い、とお命じになって下さい。”(28節)。ペテロは舟から降りる前に、イエス様に徹底的に検証を求めました。言い換えると、祈りの答えをちゃんと頂いたのです。彼は“いいよ。どうぞ歩いて来なさい！”とイエス様から許可を頂いてから水の上に足を踏み出しました。この過程はみなさん！意外ととても大切です。

ある方は“神様が我々に冒険し、チャレンジする信仰を持てるように望んでいる方”である点だけ覚えちゃう場合があります。

あるいは、自分がやりたいことで、願っていることなのに、まるで神様が大好きになる冒険と挑戦だと錯覚する場合があります。例えば、実際に、私が相談したある兄弟は自分が元々好きじゃない仕事で通いたくなかった会社なのに、辞表を出しながら、神様のために自分が今冒険をしているのだと神様を利用します。

ある人は神様は自分の安住していた人生に新しいチャレンジを下さったと自己合理化しながら、自分の妻と家族は捨てて、神様に導かれて新しく恋に落ちたあの女の人と出発するのがチャレンジする冒険の人生だと言う方もいました。

ある独身の姉妹は自分が結婚しようとしている男性がクリスチャンでもなし、却ってキリスト教が嫌いな人なのに彼を私に導いて下さったのはきっと神様ですから、後かならず彼がイエスキリストを信じてクリスチャンになれるようにチャレンジして結婚しようとする姉妹もいました。

みなさん！ここで大切なのは信仰を持ってチャレンジし、挑戦すると言うことはかならず自分勝手に決めてやるのではなく、神様の応答や御言葉の確信を頂いて進みべきです。今日弟子ペテロが決して自分勝手に、頑固で水の上の方に飛び降りたのは ないことをもう一度覚えましょう。

ヤコブの手紙4章 2節後半には“あなたがたのものにならないのは、あなたがたが願わないからです。”と書かれています。新しい人生の変化とチャレンジは自分が選択して、自分の気ままにするのではなく、神様に祈りながら、神様の御心を探ってちゃんと頂いてから始まって決して遅くならないことを忘れないで下さい。

ですから、みなさん、ここで祈りについて一つ教えられるのは、祈りはいつまで続けて祈るべきなのかということ。祈りは神様の御心をちゃんと知るまで、神様の応答、答えが自分でちゃんと分かる時まで祈らなければならないものであることです。

## 三目に、神様が望んでおられる信仰は失敗を恐れない信仰です。

ペテロははっきり自分勝手ではなく、イエス様からの答えを求め、ちゃんとOK!という許可をもらってすぐ従いました。

“イエスは「来なさい」と言われた。そこでペテロは舟から出て、水の上を歩いてイエスのほうに行った。”(29節)

ところが、みなさん！その結果はどうなりましたか。信仰をもって、イエス様の御言葉に従順し、湖の上を歩いてすぐ水に沈みかけてしまっています。

みなさん！ペテロがなぜ水に沈みかけてしまったのでしょうか。本文30節を見ると、その原因はイエス様を見ないで、風を見たからだを教えて下さっています。ペテロは激しい強風(きゆうふう)を見てこわくなり、瞬間信仰が弱くなってしまいました。最初ペテロの信仰は舟から出て湖を歩き始めた時はだれより強い信仰でした。しかし、一瞬彼の信仰は水に沈みかけてしまう弱い信仰に変わってしまったのです。(30-31)

ペテロのあやまちは水の上を歩きながらイエス様を持続的に見つめることができなかったことです。ペテロが強い風を見ている間自分を見る事になり、自分の姿を見ると、瞬間疑いが生じました。今自分が水の上を歩いていることが信じられなかったのです。すると、すぐ水におぼれるようになりました。

ペテロがイエス様に叱られたのはその疑いのためでした。信仰の中での疑いはイエス様を見上げられない時に生じるものです。全能の神様の御言葉に信頼を置けない時に生じます。疑うことはイエス様より自分の問題や環境を大きく見てしまうときに生じてしまうものです。信仰の生活を一言でいうと何ですか。感謝の時、祝福される時だけではなく、どんなに苦しい状況の中でも続けてイエスキリストを見上げて歩むことではないでしょうか。

“信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。(ヘブル人への手紙12:2)”

ペテロがイエス様から目をそらさず、ずっとイエス様を見つめて歩いたならば、きっとイエス様に着く時まで水におぼれることはなかったと信じます。

みなさんもみなさんの周りに吹いて来ている強風や荒波ではなく、続けてイエスのみを見つめて歩いて下さい。それこそ、続けて前進して行く秘訣であり、どんな大変な状況や苦しい都合になってもそこから克服し打ち勝つ秘訣になるのです。

<イエス様の御言葉に信仰を持って従っているうちに失敗してもそれは祝福です。>

愛する信仰の家族のみなさん！神様の神様の御言葉に従いながらあやまちや失敗しても恥ずかしく思ったり、それを恐れなくて下さい。瞬間の風を見て瞬間信仰が弱くなり、疑ってしまったペテロは水に沈みかけたので、すぐ“主よ。私を救って下さい。私を助けて下さい。”とイエス様に叫びます。(30節)

恐らく、その時、舟に乗っていた他の弟子たちはペテロのその失敗の光景を見て、あざ笑っていたかも知れません。

‘あのあいつ！見て見てよ。いつも生意気だな！わきまえもなく出(で)すぎた行動の結果のせいであんなになってしまったんじゃないの！’

しかし、イエス様の反応はどうでしたか。31節にイエス様はすぐに！手を伸ばして、ペテロをつかんで救い出して下さいました。そしてイエス様はペテロに私を信じて水の上を歩こうとしていた堅固(けんご)な信仰をなぜ続けて持たずに疑ってしまったのか指摘されました。もしかすると、この光景を舟の中の弟子たちが見てまたもう一度あわ笑いながら、安堵(あんど)の胸をなでおろしながら、自分たちはペテロ見たいにあんな無謀(むぼう)なチャレンジをしなかったほうがよかったと思っていたかも知れません。

しかし、舟の中にいた弟子たちは気づかなかったことがあります。

そのために我々はイエス様の次の行いにもっと注目して見る必要があります。

32節を共に読んでみましょうか。

“そして、ふたりが舟に乗り移ると、風がやんだ。”

イエス様はすぐ手を差し伸べてペテロをつかみ、救って下さいました。そして、今回はイエス様はペテロと共に湖の上を歩いて舟まで来て乗られたのです。最初はペテロ一人で水の上を歩きました。それだけでも初めて水の上を歩いた人になる素晴らしい経験をしたのですが、その水の上をペテロは二度も今回はイエス様とともに歩ける素晴らしい神様の御力を経験することができたことです。

イエス様と舟に乗るとすぐ、風もやみました。みなさん！私たちが信じているイエスキリストはどんなお方ですか。

33節をもう一度読んで見ましょう。“確かにあなたは神の子です。”(33節)

イエス様の弟子たちはこの出来事を経験してからイエス様を拝みながら、イエス様！あなたは誠に神の御子ですと心からの信仰告白をすることができました。

愛するみなさん！イエス様は我々が信仰によって生きようと努力し、従いがっているうちに失敗したり、あやまちを犯したとしてあざ笑う方では決してありません。もしかしたら、何もしなければ何の失敗することもないかも知れません。他の人からの誹謗(ひぼう)されることもないかも知れません。

しかし、そのような人は舟の中にいた他の弟子たちと同じように生きておられる神様の何の力も、奇跡的な恵みも経験することはできないのです。

将来ペテロはまたもう一度信仰が弱くなり、あやまちを犯してしまったことがあるでしょう。いつでしたか。イエス様が十字架の道のためつかまれた時、彼はイエス様が言われた通り3度もイエスを知らないと言(いな)めただけではなく、呪うまでしました。そうした彼がどうやって信仰が回復されることが可能だったと思いますか。

きっと今回の自分の信仰が弱くなって水におぼれ死にそうになった時、すぐに手を差し伸べて下さったイエスキリストの救いの手、愛の手、回復の手を覚えていたからではないかと思えます。

結局使徒の働きとかを読んで見ると、あんな弱い信仰を持ってた弟子ペテロが神様の偉大な使徒になり、初代教会を建てる時大いに用いられた一人となったことが分かります。

<まとめ>

ですから、愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！もしみなさんの中でも苦しみに襲われている方いますか。苦難に巻き込まれている方いますか。苦しみと苦難を主イエスキリストにあって変化の機会として見なして下さい。信仰を活用するチャンスとして掴んで下さい。神様の御心と答えを求める機会として用いて下さい。もう一度信仰をもってチャレンジして神様の力を経験する祝福の機会として下さい。水におぼれそうだと先取りの心配はしないで下さい。また倒れても、失敗しても主がみなさんを掴んで下さいますから。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん一人一人上にペテロのようになって失敗やあやまちを恐れず、イエスキリストをさらに強く信じる信仰によって主にあって望みの港に着く時までみな続けて前進して行く恵まれる人生の航海となるように切にお祈り申し上げます。アーメン！